

2025.11.15開催

# 大阪狭山市議会 議会報告会の報告

# 目 次

■開催の状況	P 2
■議会報告会の様子	
◎ 『第1部 議会の報告』	P 3
▼9月定例会議会の報告	P 3
◎ 『第2部 市民との意見交換会』	P 4
▽Aグループ	P 4
▽Bグループ	P 5
■市への確認結果（抜粋）	P 7
■市議会での市の関連答弁（抜粋）	
▽個人質問	P 8

## 開催の状況

●開催日時 令和7年11月15日（土） 午後2時から午後4時まで

●開催場所 市立コミュニティセンター大会議室

●出席議員 全議員14名（50音順）

### Aグループ（総務文教常任委員）

池永 裕樹	北 好雄	鳥山 健	中井 勝也
中野 学	深江 容子	山本 尚生	

### Bグループ（建設厚生常任委員）

北村 栄司	久山 佳世子	小芝 英俊	西野 滋胤
花田 全史	松井 康祐	山本 あさみ	

●一般参加 18名

## 議会報告会の様子

### ◎『第1部 議会の報告』

第1部では、令和6年度（2024年度）決算の状況や条例の審査状況など、9月定例会議会の内容について報告しました。

### ▼9月定例会議会の報告

#### 1. 令和6年度（2024年度）一般会計歳入歳出決算について

令和6年度の一般会計の決算額は、歳入総額が241億9,792万円、歳出総額は241億2,454万円、歳入歳出差引額は7,338万円、翌年度へ繰り越すべき財源として1,384万円、実質収支額は5,954万円の黒字となりました。

予算決算常任委員会において一般会計歳入歳出決算を審査したところ、「高すぎる国民健康保険料や介護保険料、後期高齢者医療保険料や自己負担を増やす制度の改悪など、国の政治のもとで市民の暮らしは大変な状況にある。国民の暮らしを最優先にするよう市民の怒りの声の表明として不認定とする」、「教職員の不足への対応や幼稚園の園児募集の再開など、市としてやるべきことができていない。住民の福祉の増進という地方自治体の責務を果たすためにも、国や大阪府に対して支援の拡大を強く求め不認定とする」などの反対の意見や、「今後、少子高齢社会がさらに進むなか、狭山ニュータウン地区の再生や今熊地区周辺エリア複合施設の整備など、賢く縮むリメイクの推進が求められる。引き続き全庁挙げて、簡素で効率的な行政運営に取り組むことを要望し認定とする」などの賛成の意見があり、賛否両論の討論が行われた後、採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決されました。

#### 2. 請願・要望の審査について

提出された請願・要望のうち、委員会に付託された3件について説明し、賛否の意見と合わせて、審査結果についても報告しました。

## ◎『第2部 市民との意見交換会』

第2部では、「子どもたちの未来のために～今、わたしたちにできること～」をテーマとして、2グループに分かれ、自由に意見を述べていただきました。

前回に引き続き、グループワーク形式で実施させていただいたことにより、ご参加いただいた市民の皆様から数多くのご意見をお聴きすることができました。皆様からいただいたご意見やご要望などにつきましては、本市の行政側に対して必要なものはお伝えし、各議員の議会質問などの参考とさせていただきます。さらに、所管する各委員会においても、付託案件の審査・審議や所管事務調査などに積極的に活用し、本市議会の活動の一層の充実につなげます。

### ▼各グループにおける意見交換の状況

#### Aグループ

##### 子どもの育ち・地域での見守り

- 発達障がいの子どものことや非行の子どもなどに対して、地域での対応や大人の見守りの必要性を感じている。
- 子どものために何ができるか、自分たちがやるべきことを考えていかなければならない。
- ひどいいたずらをする子がいても他人が叱りにくい。
- 昔は地域で叱る文化があったが、今は声かけや叱責が通報につながるため難しい。
- 昔と今では子どもへの対応が異なり、同じようにはできない。
- 他人の子どもへの怒り方がわからない。
- 子どもの数が減って見かけなくなった。今、大阪狭山市で大事なのは婚活である。

##### 子育て環境・教育・若い世代の定着

- 大鳥池住宅付近の五差路で、通学時間帯に車の通り抜けが多くスピードも出て危険。子どもの安全のため信号設置など対策を。
- バイクの騒音が増えたように感じる。議員もまちの安心安全への意識をもって行動を。
- 道路のごみや草の放置など、まち全体の管理が行き届いていないように感じる。

## 高齢化・地域力の低下・地域の維持

- 高齢化が進み草刈りができない。補助金で活動する団体もあるが、「市民」「委託」「ボランティア」など、地域の最適な形を検討すべき。
- 人が流出し、地域活動が厳しい状態にある。
- 府営住宅建替えて転居が必要だが、引っ越し費用の一時負担が難しい住民もいる。住民に寄り添った対応を。
- 堺市・松原市には市立病院があるが、本市にはない。整備すべき。

## 市民参加・議会活動のあり方

- 議会報告会は意見を出せる大切な場だが、参加者が少ない。さまざまな分野へ積極的に声かけを行い、チラシ配布方法や設置場所を工夫し、参加者増加に向けた取組が必要。

## 市の行事・サービスへの要望

- 金婚式ではお茶や品物の贈呈があったが、コーヒーや食事券などの提供をしてほしい。

## Bグループ

### 子育て世帯の生活環境・参加しやすさ

- 世代間交流や子どもイベントに子育て世代が参加しにくいのは、企画側の中心メンバーが子育て世代以外で、ニーズとずれているためでは。
- 共働き子育て世帯は平日も休日も余裕がない。子育て世帯を呼び込む制度を設けるべき。地方都市独自の施策を創出すべき。
- 子育て世代が何を求めているのか、将来を担う子どもをどう増やすか、責任をもって考える必要がある。

### 子どもの成長支援・自主性・イベントのあり方

- 子どもの自主性や自発性を育む機会の提供を。
- 魅力発見フェスタでは、さやマルシェ出店やダンス披露など、子どもたちが自ら内容を決めて活動し、隠れた才能や学校で見えない姿が引き出された。強みを生かせる居場所づくりが必要。

●防災フェスタに親子で参加する姿が見られた。生活に密着したイベントは参加しやすいのでは。楽しいだけでなく生活につながる催しを開催してはどうか。
<b>教育の質・教師の確保・地域参加</b>
●公教育についてどう考えているのか。
●良い人材（教師）が大阪府から他府県に流れている。（その場で回答済）。
●教育にお金を投資すべき。
●良い人材（教師）を増やさないといけない。
●画一的なことばかりでなく、多様な教育が必要。
●教育に熱心という評判がつけば人口が増える、良い意味でのスパイラルに入る。
●子どもが再び大阪狭山に帰ってくるようなまちにしたい。
●学校教育の場に地域が積極的に参加し、地域の人材を取り入れた授業展開をしてはどうか。
●なんでも学校・先生のせいにする風潮があり、親の指導も必要では。
●先生不足で適任でない人材を集めざるを得ず、教育の質が低下し、結果として子どもへ影響が出る。
<b>公共施設整備・再開発・都市計画</b>
●公民館周辺の再開発について、業者が決まっていない理由（その場で回答済）。
●今熊地区周辺エリア複合施設整備事業の再公募に際し、規模の縮小や予算増額を行う場合は、市民へのタウンミーティング等で意見聴取・説明を行ってほしい。
●シェアサイクル実証実験が5年と長すぎる。本市は観光地でなく道路も狭い。1年ごとの検証が必要。5年間の委託料が無駄ではないか。
●税金を納めてくれる企業を誘致する場所づくりを。北側市域に商業施設など利便性あるものを整備してほしい。
●大阪狭山市の収入を増やす方法をどう考えているのか。
<b>人口減少・地域経済・まちの将来性</b>
●子どもが少ない。地元で働く場所が近くにあれば良い
●近大が移転し、大手事業所の移転の噂など、今後の発展に不安がある。
●大阪狭山はこのまま発展しないのでは、と心配。

●移住当時は「落ち着いていて良いまち」だった。教育によって将来を豊かにできるまちであってほしい。

### 財政・税金の使い方

●お金をどれだけ効率よく使うのか、根本的な制度を考え直す必要がある。

●税金を安くして人を集める。

●税金を安くするなら、どこかの財源を減らす必要がある。

●税収を増やすには、企業誘致や利便性のある施設整備が必要。

## 市への確認結果（抜粋）

「シェアサイクル実証実験が5年と長すぎる。本市は観光地でなく道路も狭い。1年ごとの検証が必要。5年間の委託料が無駄ではないか。」のご意見に関し、本市の行政側に対して確認したところ、「実証実験には、場所の提供のみで委託料等の費用は掛かっていない。」との回答がありました。

### ●令和7年招集12月定例月議会 一般質問（個人質問）

#### 議員の質問

##### こども計画について

先日、ある市民が、「大阪狭山市は子どもにやさしいまち」と聞いて、大阪狭山市に転居したとの話を伺った。全国的には少子化が進むなかで、本市は、子どもが生まれた時点から伴走型の支援に取り組み、子育てに悩むご家庭のサポートを行っている。

また、これまでに中学校までの給食の完全実施やバイキング給食の実施など、子どもたちの健全な育成に向けた魅力的な事業を展開するとともに、近年では、学校給食費の無償化など、保護者負担の軽減などにも積極的に取り組んでおり、こうした取組の結果として「こどもにやさしいまち」との評価をいただいていると思われる。

一方で、国においては「こどもまんなか社会」の実現に向けて、各地域の実情に合わせ、総合的な施策推進を図るための「こども計画」の策定を努力義務化された。

本計画の策定を含め、今後の本市の子育て施策の展開について、本市の見解を伺う。

#### 市の答弁

本市においては、妊娠期から子育て期まで切れ目のない一体的な支援を行うため、本年3月に策定した「第3期大阪狭山市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、妊産婦や乳幼児に対する健康診査や助産師・保育士等による相談事業、地域において保護者同士が気軽に情報交換や交流できる場の提供や子育て講座の開催など、より安心して子どもを産み育て、子どもたちが健やかに成長できる環境づくりに取り組んでいる。

しかしながら、共働き世帯やひとり親家庭の増加、核家族化の進行などにより、子育て世帯のニーズは多様化しているとともに、出生数の減少による少子化や人口減少、子どもの貧困、児童虐待、ヤングケアラーへの対応等の問題に加え、子育て家庭の孤立など、子どもや子育て世帯を取り巻く環境は深刻化、複雑化しており、

今後は、こうした社会状況の変化に対応していくことが求められている。

国においては、令和5年4月に施行されたこども基本法の中で、こどもを権利の主体と位置付け、「こどもまんなか社会」の実現に向け、「こども大綱」を策定し、こどもに関する施策を総合的に推進することとしている。

本市においても、これまでの子育て支援施策の充実を図るとともに、少子化対策、子ども・若者への支援、児童虐待防止や子どもの貧困の解消に向けた取組みを進めるため、「こども計画」を策定し、子どもと子育てに関する施策を総合的に推進していく。

## **議員の質問**

### **横断歩道の安全対策について**

政府の5箇年計画である「第11次交通安全基本計画」は、計画期間の令和7年度までに、交通事故死者数を2,000人以下、重傷者数を22,000人以下とする数値目標を掲げている。これらの目標を達成するためには、高齢者や歩行者の安全確保、生活道路における速度管理、先進安全技術の普及促進など、多面的で総合的な取組が不可欠である。また、警察庁が2024年に発表した統計によれば、横断歩道を横断中の死者・重傷者数の割合は大きくは減少しておらず、特に信号機のない横断歩道での事故数は横ばい傾向にある。

横断歩道に関しては、市民から「子どもの通学路として利用されており危険なので、信号機を設置してほしい」との要望を受けることも多い。しかし、既存の信号機との距離が確保できないなど、設置基準を満たさないケースが少なくないため、信号機以外の新たな安全対策の必要性が高まっている。

- (1) 信号機のない横断歩道における車の一時停止率の向上について
- (2) 横断歩道旗の設置について
- (3) 横断者・運転者に対する注意喚起として埋込型照明灯の設置について

以上3点について、本市の見解を伺う。

## **市の答弁**

本市では、通学路周辺の信号機設置が困難な横断歩道や交差点において、歩行者事故防止対策として、交差点のカラー化を推進し、現在では約50箇所の整備を

行っている。また、黒山警察署と連携し、通学時間帯に交差点での見守り活動も実施している。

次に2番の、「横断歩道旗の設置」については、歩行者、特に子どもや高齢者など交通弱者の視認性を高め、横断時の安全を確保することを目的として設置するものであり、本市においては、要望があれば維持管理を行うことを前提に、横断歩道旗を提供し、学校・PTAなどと連携して設置された事例もある。

最後に3番、「横断者・運転者に対する注意喚起として埋込型照明灯の設置」については、黒山警察署に確認したところ、路面埋込型による照明灯より、上部から照らす照明灯の方が、安全で効果があるとのことだった。また、歩行者が夕暮れ時や夜間に外出する際には、明るい目立つ色の服装に心がけることや、反射材を活用することが望ましいとの意見も併せてあった。

今後、埋込型照明灯の設置については、他市における効果検証の結果や、国のガイドライン整備の動向を注視しながら、情報収集に努めていく。